

# 令和3年度 第2回まちづくりミーティング

日時：令和3年12月26日（日）15時30分～16時10分

場所：福知山市役所 オンラインルーム

団体：ふくちゼミ

※大雪による災害対応、交通状況悪化等により、ZOOMによるオンライン形式で実施

団体：ふくちゼミ活動報告会で、6つのプロジェクトから半年間の活動報告を行う

○主な話し合いの内容

懇談テーマ「福知山で若者がまちでプロジェクトを行うために必要なこと」  
「若者がまちづくりに参画する仕組みづくり」

## 【ふくちゼミ生の活動報告会を受けての市長講評】

市長：このまちの元気を作るとき、どんな課題があるかを見つけることが大切。高校生の皆さんから見て、こんなところが問題で、ここを変えていくべき、というところを見つけることがとても大事で、私や市の職員の思う課題と、高校生の皆さんの思う課題は、必ずしも一致しないので、私たち行政にとってとても勉強になる。

こういったプロジェクトの場で発表してもらえることが、このまちのためになる。このまちの未来を担っている高校生の皆さんが、まちの課題について考える事が重要と思っているので、来年以降も続けていきたい。

また、課題を見つけ、企画立案を行った後、実行に移していくことが本当に難しいところ。みなさんもこれから引続きプロジェクトを進める際には、実際に実行する場合の課題についても、考えながら進めてほしい。

## 【市長→ふくちゼミ生への意見・質問】

市長：五十嵐さんのプロジェクトは移住者交流のきっかけづくりをされた。こうした交流は町単位が多いため、福知山市全域でやった方がいいと思われたとのことだが、町単位の交流会を、どう位置付けて考えたのか、なぜ市全体でされたほうがよいと考えられたのかを、明確にされたらよいと思う。今後の展開は何か考えられているか？

五十嵐：現在のところは考えられていない。

市長：橋本さんの広報ふくちやま作成プロジェクトは、いろんな世代の人たちに読んでもらえる、という意識を持って作られたのか。

橋本：そうです。

市長：それならば、市の広報担当にも、参考にするように伝えておく。次のステップは何か考えているか？

橋本：今のところは考えていない。

新 宮：アンブレラプロジェクトについては、どんなことを伝えたいかはっきりして挑めたらよかったと言われたが、プロジェクトを終えた今、何が伝えたいか改めて考えられたか。

新 宮：そもそもは、高校生や大学生が市の活動に関わる機会がないので、それができるきっかけづくりを、という思いで始めた。それをもっとできればよかったが、なかなかできなかったので、反省点としている。

市 長：これからどうしていきたい、という思いはあるか。

新 宮：来年度以降も継続したいと思っている。もともとは商店街での実施を予定していたため、本来の形でできればと思っている。

市 長：福知山踊りのプロジェクトについて、参加数はどれくらいだったか。

籠 谷：実際の参加は20名程度、オンライン参加は10名程度だった。もっと多くの参加を期待していたが、オンラインでの音楽再生などの難しさもあり、課題点となった。

市 長：オンライン環境の不安定さも、課題になると思う。私自身は広小路通ですずっと踊りを踊っていた世代だが、皆さんはどうか。

籠 谷：小さなころに経験しており、大会などにもでたことがある。

市 長：先ほど企画立案を実行に移すことが難しいという話をしたが、成果目標値を設定し、そこに向かって頑張ることも大切。これからプロジェクトを作る際は、こうしたことも意識して行ってほしい。

#### 【ふくちゼミ生→市長への意見・質問】

籠 谷：SP みたいな人はいますか？

市 長：いません。ふつうにスーパーで買い物なんかしていますよ。

籠 谷：市長をしていて大変なことはありますか？

市 長：市ががんばってやったことを、市民の皆さんにうまく PR できていないことが大変。皆さんに知ってもらえなければ、その事業はないのと同じ。皆さんも、知ってもらうことをプロジェクトの一部として考えて行ってほしい。

新 宮：やりがいを感じることは？

市 長：何かを前に進めようとしたときに、成果が出た時にやりがいを感じる。

新 宮：市長を目指した理由は？

市 長：市長になる前、京都府議会議員をやっていた。当時から、市の財政はこれから危うくなるのではないかと感じており、市のサービスが立ち行かなくなると危ぶんでいた。それを改善したいという思いから、市長を目指すこととした。

新 宮：福知山市の高校生や大学生に期待すること、やってほしいことはあるか。

市 長：光秀マインドという言葉を使ったが、挑戦心をもって、いろんなことを恐れずやって行ってほしい。老舗が何百年も続いているのは、伝統を守りつつも、新しい時代の要素を取り入れて頑張っているから。自分の今に満足せず、もっと先に進む挑戦心を常にもって、頑張ってもらいたい。

橋 本：趣味は？

市 長：なかなか自分の時間をもてないが、今は「食べること」が趣味。

橋 本：好きな食べ物は？

市 長：魚が好き。自分でも料理を作っていて、昔はフランス料理を作ったし、最近は麺類が多い。

五十嵐：市長として大切にしていることは？

市 長：ピーター・ドラッカーという人が、現在と未来、長期と短期のバランスを大切にすることを説いている。福知山市を、今を生きる私たちが未来に向けて、持続可能すみよいまちにしていくこと、負の遺産を未来に残さないことを、今一番大事にしている。現在、福知山市で、新しいまちづくりの計画「まちづくり構想」を作っている。2040年の世界を見通しながら作成しており、誰にも未来のことはわからないが、今とは必ず違う。皆さんが大人になった社会にむけて、今福知山市が何をしていかなければならないかを、バックキャストしながら考えている。

五十嵐：市長が感じる、福知山の良さは何か？

市 長：住んでいる人には中々わからないとよく言われるが、福知山市は合計特殊出生率が全国的にも高い水準にある。市民にアンケートをとった結果でも、病院、買い物環境等、生活に必要な要素がコンパクトにまとまっているという意見が多い。また、都会過ぎず田舎過ぎない、京阪神へのアクセスも便利、周辺部は自然が豊か。そうしたことのバランスがとれたまちであることが、よいところだと思う。